北海道医師会館９階理事会室

第17回常任理事会

日　時　平成29年11月14日(火)18：00～19：35
場　所　北海道医師会館９階・理事会室
出席者　長瀬会長、深澤・藤原両副会長、北野・三戸・目黒・橋本・水谷・山科・岡部・生駒・笹本・櫻井各常任理事、津田・藤瀬両監事
（事務局：安達局長ほか14名）

協議事項

第１号　社会保険診療報酬支払基金北海道支部審査委員会委員の推薦に関する件（橋本常任理事）

欠員となっていた診療担当代表委員１名について、札幌市医師会より推薦のあった１名を推薦することと決定。

第２号　医療業務妨害行為対応費用保険に関する件（岡部常任理事）

患者からのクレームに対応するための弁護士費用を補償する保険を導入することとし、契約については各会員の任意加入とすることで来春から募集することを決定。

第３号　グループ保険オプション契約満了後の新たな保険制度に関する件（岡部常任理事）

死亡･高度保障障害時の保険金最高額の引き上げ、傷害保険、三大疾病保障、入院保障の各オプションの契約満了年齢の80歳６か月までの延長など、新たな保険制度を導入することを決定。

第４号　日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件（櫻井常任理事）

申請のあった日医生涯教育講座21件、道医認定生涯教育講座27件の計48件を承認。

第５号　北海道医師会職員給与規程等の一部改正に関する件（三戸常任理事）

国の人事院勧告に基づき、北海道人事委員会が勧告した道職員の平成29年給与表ならびに期末・勤勉手当の改定に準じて、当会職員についても同様に平成29年４月１日から適用することを承認し、次回理事会に諮ることと決定。

報告事項

１．勤務医懇談会［９月21日(木)･北見市､10月13日(金)･旭川市］について（北野常任理事）

本年度は、北見市ならびに旭川市近郊の医師会管下の医療機関勤務医を対象に、それぞれ開催した。北海道労働局雇用環境・均等部企画課・成田課長より「働き方改革の動向について」、伊藤常任理事より勤務医部会報告書をもとに「勤務医の労働環境を改善するために」と題し、話題提供した後、勤務医を取り巻く諸問題について「勤務医が医師会に望むもの」をテーマに、出席された先生方からのスピーチと活発な意見交換を行った。参加者は北見市が23名、旭川市が26名であった。

２．第61回社会保険指導者講習会［10月４日(水)・５日(木)・東京］について（橋本常任理事）

「脳血管障害 診療のエッセンス」をテーマに日医と厚生労働省の共催により開催された。各講師からは脳血管障害の疫学と危険因子、脳梗塞の超急性期治療、脳血管障害の血管内治療の進歩、脳血管障害の外科的治療と現状等について説明があった後、厚生労働省保険局・迫井医療課長より「平成30年度診療報酬改定に向けて」、厚生労働省医政局・武田局長より「地域医療構想の実現に向けて」と題して、それぞれ説明があった。その後、日医・中川副会長より「地域医療構想の正しい理解のために」について説明があった後、今回のテキストは、脳血管治療について網羅しており、これからの日常診療に役立てて欲しいと締めくくった。

３．医業経営講習会［10月11日(水)・美唄市、10月26日(木)・釧路市］について（岡部常任理事）

医療総研株式会社・伊藤代表取締役社長を講師に迎え、「診療圏分析と医療経営戦略」と題し、それぞれの地域における入院・外来患者数を推計し、医療機関における機能の明確化等を含めた今後の経営戦略について講演いただいた。地元医師会の協力のもと、閉会時には、美唄市医師会・井門会長ならびに釧路市医師会・久島会長より挨拶をいただいた。参加者は会員および事務担当者等、美唄市17名、釧路市19名であった。

４．医療経済フォーラム・ジャパン「第16回公開シンポジウム」［10月19日(木)・東京］について（笹本常任理事）

「2018年の先を見据えて」をメインテーマに開催された。医療介護福祉政策研究フォーラム・中村理事長の基調講演の後、医療経済研究機構･西村所長、日本病院会・相澤会長、日医・今村常任理事、慶應義塾大学経済学部・土居教授、津田塾大学総合政策学部･森田教授の５名からそれぞれ発表があった後、西村所長を座長として、質疑応答が行われた。参加者は約500名であった。

５．第45回日本救急医学会総会・学術集会［10月24日(火)～26日(木)･大阪］について(目黒常任理事)

大阪大学大学院医学系研究科救急医学・嶋津教授が会長となり「Love EM(Emergency Medicine)!～救急への想い～」をテーマに開催された。会長講演、特別講演、教育講演、救急科領域講習、シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ、一般演題等が行われた。参加者は約5,600名であった。次回は来年11月19日(月)～21日(水)に横浜市で、帝京大学医学部救急医学講座・坂本主任教授が会長となり開催される。

6.地域医療を担う青少年育成事業［10月25日(水)・八雲町、10月30日(月)・本別町］について（櫻井常任理事）

本年度は八雲町、本別町の２地区で開催した。本事業は平成24年度開始より５年が経過し、一定の成果を得たことより、従来の講演、実技医療体験学習と住民講演会の取組に加え、今後さらに地域医療に対する中学生などの関心を高めるため、地方出身者などの初期臨床研修医、地域枠医師による医師になるまでの道程のスピーチや医療機器の実演指導などに参加してもらい、学生との交流を図った。来年度も若者の医療関係職種への動機づけと行政や住民の地域医療への意識の向上に繋げていくために、事業内容の拡充を継続していく予定。

7.「医療と介護のICT連携」に関する座談会［10月27日(金)］について（水谷常任理事）

介護関係団体５団体の代表者の出席のもと、ICTを活用した医療と介護の連携に関する課題等について意見交換を行った。

8.医政講演会講師による日高視察［10月28日(土)・新ひだか町］について（笹本常任理事）

本年度の医政講演会講師である、東京大学大学院国際保健政策学教室・渋谷教授を新ひだか町立静内病院に案内した。同院視察の後、日高医師会・小松会長をはじめとする同会役員５名から日高医療圏の実情について、それぞれの立場から説明した後、意見交換を行った。

9. 医政講演会［10月29日(日)］について（笹本常任理事）

平成27年に厚生労働省・塩崎元大臣の私的諮問機関として発足した「保健医療2035」策定懇談会で座長を務め、最近では「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会」座長として報告書を取りまとめた東京大学大学院国際保健政策学教室・渋谷教授を招聘し、「医療の将来と医師の働き方」をテーマに、講演が行われた。参加者は77名であった。

10. JMAT研修会〔基礎編〕［10月29日(日)］について（目黒常任理事）

今後起こりうる災害に備え、災害医療業務に従事する可能性がある方々を対象として、JMATの心構え、災害時対応の基本的な認識の共有を目的に平成24年度から本研修会を開催しており、昨年度から基礎編と実践編に分けて実施している。基礎編では、旭川赤十字病院・住田副院長が災害医療の基礎知識について講演し、北海道保健福祉部地域医療課・築島医療参事より本道の災害被害想定と医療提供体制の説明を行った。その後、机上演習をはさみ、札幌医科大学医学部救急医学講座・上村講師からの災害時の受援におけるポイント説明のほか、EMIS(広域災害救急医療情報システム)による被害状況の共有について講義があった。小職からJMATの概要・活動と今後の展望について説明し、本研修会を終えた。参加者は、医師・薬剤師・看護師・助産師・臨床工学技士・事務職等48名であった。なお、実践編は来年２月18日(日)開催予定である。

11. 地域医療に係る北海道大学学生との懇談会［11月６日(月)］について（長瀬会長）

本年度の政経問題懇話会(８月19日)で講演いただいた北海道大学法学部長・加藤教授のゼミ学生10名(３年生４名、４年生６名)と、北海道における医療提供の現状、医療介護総合確保基金について懇談を行った。

12. 北海道認知症サポート医連絡協議会設立準備会［11月７日(火)］について（水谷常任理事）

７人の委員が出席し、標記協議会の設立に向けて規約(案)等について検討を行った後、本年度の認知症サポート医フォローアップ研修、かかりつけ医事例検討会のプログラムについて協議を行った。

13. 第24回日本航空医療学会総会・学術集会［11月10日(金)・11日(土)・青森］について（目黒常任理事）

八戸市立市民病院・今院長が会長となり「劇的救命」をテーマに開催された。ランチョンセミナーで手稲渓仁会病院・奈良救命救急センター長が「メディカルウイング(Medical Wings)について～北海道の挑戦」をテーマに講演したほか、特別講演、シンポジウム、パネルディスカッション、一般演題（北海道航空医療ネットワーク研究会からの発表を含む）等が行われた。参加者は625名であった。次回は来年11月３日(土)・４日(日)に、岡山県倉敷市で、川崎医科大学救急医学教室・荻野教授が会長となり開催される。

14. 外部各委員会報告

⑴ 第２回北海道がん対策推進委員会［10月24日(火)］について（長瀬会長）

次期北海道がん対策推進計画について、各専門部会(「緩和ケア・在宅医療」「がん患者支援」「がん登録」「がん検診」)の検討内容を踏まえた素案(案)の説明があり、内容について文言等の検討を行った。

⑵ 第１回北海道医療審議会［11月10日(金)］について（長瀬会長）

平成25年４月からの現北海道医療計画における「５疾病・５事業及び在宅医療」について、

その推進状況と評価の報告が行われた。その後、新たな「北海道医療計画」（仮称）［素案］（案）について説明が行われ、一部文言等の修正を加えたうえで、予定したスケジュールにより進めていくことを確認した。

道総医協関連事項（深澤副会長）

1．第４回救急医療専門委員会［10月16日（月）］について（目黒常任理事）

前回の本委員会で各委員から出された意見を反映した救急医療、災害医療、小児救急医療の３分野の次期北海道医療計画（素案）について説明の後、分野ごとに意見交換を行った。その結果、当該計画（素案）の内容について各委員から了承を得られたため、文言整理を行ったうえで10月30日の地域医療専門委員会に提出した。

2．第３回地域保健専門委員会［10月25日（水）］について（藤原副会長）

次期北海道医療計画素案（案）と次期北海道がん対策推進計画素案（案）について説明があり、文言等の整理を行い、承認した。また、がん医療の均てん化の観点から二次医療圏に複数設置されている圏域の拠点病院の評価を行い、整備の優先度が高い未整備圏域から申請のあった拠点病院または診療病院との入替えを行うための審査要領（案）が示され、各委員からの意見を集約し、検討することとなった。

第18回常任理事会

日　時　平成29年11月28日（火）18：39 ～ 20：13

場　所　北海道医師会館９階・理事会室

出席者　長瀬会長、深澤・小熊両副会長、北野・三戸・目黒・藤井・水谷・山科・伊藤・笹本・青木各常任理事、津田・藤瀬・篠島各監事

（事務局：安達局長ほか13名）

協議事項

第１号　母体保護法指定医師の指定に関する件（三戸常任理事）

11月15日の審査委員会で指定可とされた新規申請者１名を指定医師とすることと決定。

第２号　日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件（青木常任理事）

申請のあった日医生涯教育講座21件、道医認定生涯教育講座21件の計42件を承認。

第３号　北海道医師会職員育児・介護休業等規程の一部改正に関する件（三戸常任理事）

「改正育児･介護休業法」が本年３月に成立･公布、10月に施行されたことに伴い、当会職員の育児・介護休業等規程の一部を改正することが承認され、次回の第６回理事会に諮ることと決定。

第４号　その他

(1)　12月行事予定表に関する件（事務局）

報告事項

1．平成29年度医療事故調査制度に関する研修会について（青木常任理事）

本年度は、室蘭市（10/16）、紋別市（11/6）、旭川市（11/17）の３ヵ所において開催した。研修内容は各会場同一で、北海道大学病院医療安全管理部・南須原部長から「医療事故調査制度の概要と問題点～施行から二年が経過して」、国立病院機構北海道医療センター救命救急部・七戸部長から「医療事故調査に係る死因診断の意義　～ Aiを中心に～」をテーマにそれぞれ講演が行われ、小職から医療事故調査制度に対する当会としての取り組みを説明した後、質疑応答を行った。参加者は213名であった。

2．とよひら・りんく　シンポジウム「今後10年先を見据えた病床連携を考える」［11月14日（火）］について（伊藤常任理事）

札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会「とよひら・りんく」主催のもと「今後10年先を見据えた病床連携を考える～豊平区を対象とした地域医療構想・病床機能に関するシンポジウム～」が開催された。北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課・小川課長より「札幌圏における地域医療構想の考え方と協議の進め方」と題して講演が行われた後、シンポジウムでは、小職もシンポジストとして参加し、活発な意見交換が行われた。参加者は約150名であった。

3．第41回北海道救急医学会学術集会［11月18日（土）］について（目黒常任理事）

市立札幌病院救命救急センター・佐藤部長、松本看護師長、札幌市消防局・大島消防局長が当番幹事となり、ホテルライフォート札幌で開催された。発表演題数は特別講演２題、一般演題72題、交流セッション１題の合計75題が行われ、特別講演１では杏林大学医学部救急医学教室・山口教授から「事態対処医療～これまでになかった“災害”の形～」について、特別講演２では京都府立医科大学救急医療学教室・山畑講師から「母体急変コースの展開～周産期医療と救急医療をつなぐもの～」について講演が行われた。また、当該医学会総会が同日に行われ、役員改選により、丸藤会長の後任として旭川医科大学救急医学講座・藤田教授が選出された。参加者は過去最多の563名であった。次回の学術集会は、来年11月10日（土）に旭川市のアートホテル旭川において、旭川医科大学救急医学講座・藤田教授等が当番幹事となり、開催予定。

4．「有床診療所の日」記念講演会［11月19日（日）・東京］について（伊藤常任理事）

徳川吉宗によって小石川養生所が設置された日（1722年12月４日）を「有床診療所の日」と定め、日医と全国有床診療所連絡協議会の共催で記念講演会

が開催された。基調講演では、薩摩川内市下甑手打診療所前所長・瀬戸上先生から「離島医療39年、Dr.コトーと有床診療所の時代」と題して、離島・へき地でがん手術や人工透析の体制整備の取り組みや離島医療での患者との信頼関係の重要性について講演が行われた。全国有床診療所連絡協議会・松原三郎常任理事から熊本地震についての報告の後「地域包括ケアシステムにおける有床診療所の役割」をテーマに６名によるシンポジウムが行われ、有床診療所が地域で果たしている役割、地域包括ケアシステムにおける有床診療所への今後の期待、活性化策について意見交換があった。出席者は317名であった。

５．全国メディカルコントロール協議会連絡会（第２回）［11月22日（水）・千葉市］について（目黒常任理事）

例年どおり全国救急隊員シンポジウムに合わせて開催された。第１部は初めての試みとして「我らの地域のメディカルコントロール取組事例発表“ベストプラクティス2017”」が行われ、応募演題の中から７題の発表があった。第２部は「わが国の消防本部心肺蘇生統計活用による国際コンセンサスとガイドラインへのインパクト」「メディカルコントロールと社会医学との関わり」の２題の講演があり、第３部で厚生労働省および消防庁から情報提供があった。第１部で発表したベストプラクティス2017の表彰式が行われ、参加者投票により「ベストプラクティス賞」「ベストプレゼン賞」各１題が選出された。参加者は消防本部、医療機関、医師会関係者等1,074名であった。来年度第１回連絡会は、来年５月31日に名古屋国際会議場で開催予定。

６．国民医療を守るための総決起大会［11月22日（水）・東京］について（笹本常任理事）

日医・今村副会長より趣旨説明、日本歯科医師会・堀会長、日本薬剤師会・山本会長、日本看護協会・福井会長の決意表明、全日本病院協会・猪口会長による決議の後、日医・松原副会長の音頭で、全員による頑張ろうコールを行った。参加者は約800名（うち国会議員107名、代理149名、計256名）であった。

７．地域医療住民活動懇談会［11月24日（金）］について（伊藤常任理事）

道内24の住民活動団体と郡市医師会に案内し、８団体より12名の出席を得て開催した。「地域医療を守る活動を継続・発展させるためには何が必要か」をテーマとし、意見交換を行った。

８．日医女性医師支援シンポジウム［11月26日（日）・西予市］について（藤井常任理事）

西予市では、県内外で活躍する女性医師らをたたえる西予市おイネ賞（日本初の産科女医「楠本イネ＝シーボルトの娘」に因む事業）を2012年に創設しており、第６回目の今年は西予市、愛媛県医師会、日医の３者の主催により、地域における女性医師支援、医療・健康を通じてのまちづくりの取り組みを進める契機となるよう開催された。第１部の表彰式の後、第２部のシンポジウムでは、日本医科大学・海原特任教授による「健康寿命と輝き思考～素敵に歳を重ねよう～」と、自見はなこ参議院議員による「女性医療職の輝く明日へ～地域の健康をめざして～」の講演と「安心して暮らせる地域づくり」をテーマにパネルディスカッションが行われた。参加者は550名であった。

９．日医理事会報告（長瀬会長）

世界医師会欧州地域終末期医療シンポジウム、第48回全国学校保健・学校医大会、中医協、日本専門医機構第21回理事会、社会保障審議会介護保険部会（第73回）、医道審議会医師分科会医師臨床研修部会、薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会の件等の報告や、平成29年度第３回都道府県医師会長協議会、平成29年度医療事故調査制度支援団体統括者セミナー、平成29年度学校保健講習会の開催の件等を協議した。理事会の詳細については日医ニュース等を参照されたい。

10．日医各委員会報告

⑴　医師の働き方検討委員会［11月27日（月）］について（藤井常任理事）

会長諮問に対する答申にむけて、ディスカッションを行った。答申で使用する用語を統一し、①勤務医のワークライフバランスの実現（主に労働基準法との関わり）、②勤務医の労働安全衛生の充実（主に労働安全衛生法との関わり）、③地域医療を守る（主に労働基準法、医師法、地域医療構想との関わり）、④日本医師会の役割の構成で取りまとめていくこととなった。本報告について、活発な意見交換を行った。

11．外部各委員会報告

⑴　北海道医療対策協議会　第21回地域医療を担う医師養成検討分科会［10月26日（木）］について（小熊副会長）

本年度４回開催のワーキンググループ・地域医療を担う医師の確保に関する検討委員会で検討を行った次期医療計画（医師確保に関する記載事項）［素案・案］について説明があり、承認した。

⑵　第４回北海道いじめ問題審議会［11月15日（水）］について（三戸常任理事）

昨年度の児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について報告があった後、北海道いじめ防止基本方針の改定素案が示され意見交換を行った。

12．その他

⑴　第３回都道府県医師会長協議会［30年１月16日（火）］の提出議題について（三戸常任理事）

都道府県医師会長協議会への議題提出および期限について確認した。

道総医協関連事項（深澤副会長）

1．第５回地域医療専門委員会［10月30日（月）］について（小熊副会長）

新たな「北海道医療計画」（仮称）について、へき地医療体制、小児医療体制、在宅医療の提供体制の３つの個別事業等に関する説明があった。基準病床数および指標（数値目標）の設定、計画素案（案）の概要について説明の後、今後のスケジュールが示された。その後、地域医療構想の推進管理について地域医療推進シートの作成に係る説明があり、了承された。

道医の動き

11月12日　第２回郡市医師会長協議会、道医創立70周年記念行事

11月13日　三役会、食物アレルギー・アナフィラキシー対応研修会（帯広市、後藤常任理事）

11月14日　第17回常任理事会、広報委員会

11月15日　母体保護法指定医師審査委員会、日医救急災害医療対策委員会（目黒常任理事）、日医救急災害医療対策委員会・地域の救急医療におけるかかりつけ医の役割ワーキンググループ（目黒常任理事）

11月16日　全国学校保健･安全研究大会（～17日、三重県津市）、医療事故調査制度に係る管理者・実務者セミナー（帯広市、青木常任理事）

11月17日　医療事故調査制度に関する研修会（旭川市、青木常任理事）

11月18日　全国学校保健・学校医大会（三重県津市、長瀬会長、後藤･三戸両常任理事）、道南医学会大会（函館市、藤原副会長）

11月19日　「有床診療所の日」記念講演会（東京都、長瀬会長、伊藤常任理事、林日医委員）

11月21日　日医理事会（長瀬会長）、北海道小児救急医療地域研修会（砂川市、目黒常任理事）

11月22日　全国メディカルコントロール協議会連絡会（千葉県千葉市、目黒常任理事）、国民医療を守るための総決起大会（東京都、長瀬会長、藤原副会長、笹本常任理事）

11月24日　地域医療住民活動懇談会、日医地域医療対策委員会（笹本常任理事）、患者接遇に関する研修会（美幌町、岡部常任理事）

11月25日　医療の質･医療安全学術集会（～26日、東京都、青木常任理事）

11月26日　日医女性医師支援シンポジウム（愛知県西予市、藤井常任理事）

11月27日　三役会、日医医師の働き方検討委員会（藤井常任理事）

11月28日　第18回常任理事会

11月29日　医事紛争処理委員会、日医有床診療所委員会（林日医委員）、医療フォーラム（東京都、笹本常任理事）

11月30日　介護保険制度・障害者総合支援法にかかわる主治医研修会、北海道小児救急医療地域研修会（函館市、目黒常任理事）

12月１日　審査委員懇談会

12月２日　産業医学基礎（後期）研修会（～３日）、日医家族計画・母体保護法指導者講習会（東京都）

12月３日　救急医療対策部会小委員会、災害時医療救護活動マニュアル作成検討委員会、救急医療部担当理事会、日医女性医師支援センター事業北海道・東北ブロック会議（岩手県盛岡市、藤井常任理事、藤根日医委員）

12月６日　近畿大震災を想定した衛星利用実証実験（防災訓練）［TV会議システム］、日医生涯教育推進委員会（櫻井常任理事）、日医社会保険診療報酬検討委員会（橋本常任理事）

12月７日　都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会（東京都、青木常任理事）、北海道救急医療フォーラム打合せ会（室蘭市、目黒常任理事）

12月８日　北海道厚生局との打合せ、日医男女共同参画委員会（藤根日医委員）